学生主体の PBL と教科書の利活用
-2025 年度のイーグレひめじでの活動を通して-

久保田薫葉　池本和奏　伊澤友美　樽角咲希　太田尚孝（都市計画研究室）

キーワード：PBL，学生主体，プロジェクト学習，教科書，まちづくり

1. はじめに

兵庫県立大学環境人間学部都市計画研究室では，2022 年度から PBL（Project Based Learning）としてイーグレひめじ（以下，イーグレと省略）にて，学生主体の実践的まちづくり活動を実施している。本稿は，活動 4 年目となる 2025 年度の実践報告である。過去の活動と同様に，学部 3 年生の学生がプロジェクトの企画立案→実施→評価→報告までを一貫して行ったが，他方で新たな取り組みとして，常盤拓司・西山敏樹（2019）『大学 1 年生からのプロジェクト学習の始めかた』 慶應義塾大学出版会，をベースに活動を行った（以下、教科書と表記）。

この背景には，過去の活動での困難さと大学の研究室が行う活動ゆえの構造的問題があった。前者については，PBL は社会人基礎力の向上や大学の地域貢献の具体的形として今や一般的な教育手段になっているとしても，そもそもプロジェクトとは何か，プロジェクトをどのように組み立て，実践していけば良いのかを必ずしも十分に理解できないままにスタートし，結果的にプロジェクトが停滞することもみられた。後者は，毎年参加学生が変わり，同じ研究室の継続的な PBL であったとしても，学生の意欲や経験値はバラつきがあるため，経験則に基づく先輩学生の活動報告書 [1) 2)] 以外の共通的事前準備が必要と考えた。

以下，本稿では 2 章で事前学習的に用いた教科書の概要を説明し，3 章で実際に行ったプロジェクト実践を紹介する。その上で，4 章にてプロジェクトの振り返りも兼ねて教科書がどのような場面で役立ったのか，あるいは役立たなかったのかを示す。最後に，PBL が今後もますます大学教育の中で重要視され，他方でより実りある活動になるために教科書は必要という立場からどのような教科書による事前学習を進めることが望ましいのか，を提言したい。なお，既往研究 [3)] のように PBL といっても様々なタイプがあるが，都市計画研究室のプロジェクトは「立ち上げ強化型」に分類される。

2. 教科書『大学 1 年生からのプロジェクト学習の始めかた』の概要

2.1 プロジェクトについて

プロジェクトは「目標に向かって実行する」ことと定義し，誰もやったことがない考えを実現することを意味する。全てのプロジェクトに当てはまることは，目標を達成するための取り組みであること，期限があることの 2 点が挙げられる。

2.2 プロジェクトの実施工程

プロジェクトの全体像として，①目標を立てる，②達成要件を定める，③タスクを設ける，④工程表を作成する，⑤実際の作業を行うの 5 つがある。①から順に進める「落とし込み」，問題が発生した際にひとつ前の内容を見直す「差し戻し」を行いプロジェクトを進める（図 1）。

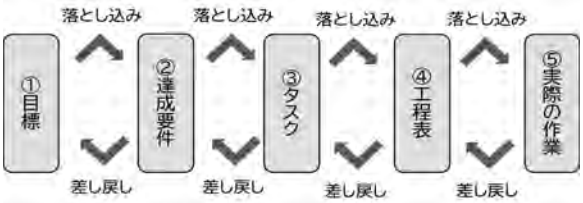

図 1　プロジェクトの実施工程
出典：筆者作成

①は，プロジェクトの完了を定めることを意味し，「なぜ目標を達成しなければならないのか」という視点で考える必要がある。②は，目標を達成するために必要なことを指し，達成要件の外部依存性の高さには注意する必要がある。③は，具体的な作業について 5W1H を定めることを指し，プロジェクトの進行に伴い細分化する。④は，プロジェクトを効率的に行うため，タスクを整理することである。メンバー全員が確認できるように共有し，期限が分かるものにすることが重要である。

この 4 段階により，プロジェクトの計画が立ち，4 項目は情報共有，意識化の手段と認識であり、プロジェクトの進行に伴い見直しが発生する。

2.3 プロジェクトを進めるコツ

計画が終了すれば,プロジェクトの各作業の把握,順番や担当者の割り当てなど,プロジェクトが円滑に進む状態にする「マネジメント」が重要になる。また,進むべき方向を指し士気を鼓舞しつつ共に進む姿を指す「リーダーシップ」も重要である。

計画の実行のために必要なことはタスクの管理である。プロジェクトが進むことはタスクを減らすことを意味し,タスクは初めが最も多いと考えられがちだが,理想的なタスク増減は図 2 であり,プロジェクト開始時からタスクは限界まで増加し,これ以上増やせなくなれば減り始めるという流れを持つ。

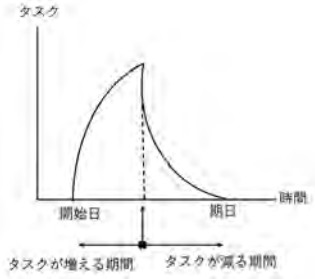

図 2　理想のタスク増減
出典：筆者作成

さらに実行に向けて,タスクを書き出した要望管理表の作成が必要である。計画から実行に移る際に適切な順番を考え,作業を仕分けることで効率的にプロジェクトを進めることができる（図 3)。

要望	計上日	重要度（高・低）	実施（検討中・する・しない）	判断理由
A市の歴史を調べる	○○○○年○月○日	高い	する	A市の魅力を発信するうえで,歴史の中によいコンテンツがある
ウェブサイトにA市にある特徴的なお店の宣伝を載せる	○○○○年○月○日	高い	検討中	A市の魅力の1つになるが、大学の取り組みとして良いか検討が必要

図 3　要望管理表の例
出典：筆者作成

次に，プロジェクトを進め，タスクの取捨選択をする中で本当に必要だと判断したものを表す課題管理表を作成する（図 4)。

項目	説明	担当者	計上日	期限	達成要件	前提となる作業
計画を立てる			○○○○年○月○日	○月○日	担当教員に提出される	

図 4　課題管理表の例
出典：筆者作成

2.4 プロジェクトの注意点

プロジェクトの中盤から後半にかけて様々な課題や作業項目が新たに見つかる場合などプロジェクトの期限までに目標達成が著しく困難な状況を「炎上」と言う。「炎上」が起きた際は原因を除去する「鎮火」を行うことが重要となる。「鎮火」には①状況把握，②状況把握を踏まえた計画変更，③変更した計画による体制変更の 3 段階がある。これらの「鎮火」では，プロジェクトの失敗を全員でとらえることに注意する必要がある。

2.5 プロジェクトの評価

プロジェクト実施中の評価軸で分かりやすい観点は，プロジェクトの残り時間である。残り時間での判断はその時点でタスクが増える段階であるのか,減る段階にあるのかを明確にすることができ,理想と現実の違いを捉えることができる。

プロジェクトが目標を達成した時点,時間切れになった時点からの評価として,成功か失敗かが判断できる。成功とは，目標を達成したことで得られた成果がプロジェクトの背景にあるビジョンやミッションに貢献できた場合であり，失敗とは，プロジェクトの背景にあるビジョンやミッションに貢献できなかった場合を指す。どちらにも分けることが難しい中間は,期限までにプロジェクトで取り組む作業がすべて完了したが,目標は達成できなかった場合，期限までに作業が少し残ったが，ある程度目標は達成した場合などが挙げられる。

最終評価には，外部評価と内部評価がある。外部評価は,プロジェクトの成果を受け取る人がプロジェクトの期限に目標が達成できたのかを確認する作業を指し,開始時点で開示した評価の方針に基づいて行う。内部評価とは，プロジェクトメンバーが主体的に取り組みを検討し評価することであり,一般的に「振り返り」と呼ばれる。プロジェクトメンバーが取り組む過程で得た経験を相互に開示し,確認する機会である。失敗の原因を考え，共有することで真の失敗の理由を見出し,メンバーにとっての失敗の意義を生み出すことが重要である。

個人での振り返りを行う際は,①計画との差異を明らかにする，②コミュニケーションの評価，③プロジェクトの可視化,④プロジェクトの振り返りシート作成の 4 つがある。①は，プロジェクトの達成までに必要な作業時間の見込みの総数増減の可視化等で振り返る。②は，会議の議事録やコミュニケーション頻度などの数字や時間を測ることを指す。③は，タスクの増減や計画の見直しのタイミング,②の内容を書き入れたグラフを作成することで妥当性や理由を検討することができる。④は，できるようになった・努力したことなどから振り返り,メンバーの相互評価により,新たな理解が得られる。

3. 2025 年度の活動報告

3.1 課題分析と企画検討（２月～６月）

2025 年度のイーグレでの学生主体プロジェクトは，2 月の関係者との打ち合わせからはじまった。4 年目となる今年度はイーグレひめじ管理会社，姫路市内のデザイン会社の夕雲舎と協働する形で，イーグレ再生のための具体的提案として，屋上を活用したピクニック，体験教室を開催した（図 5）。

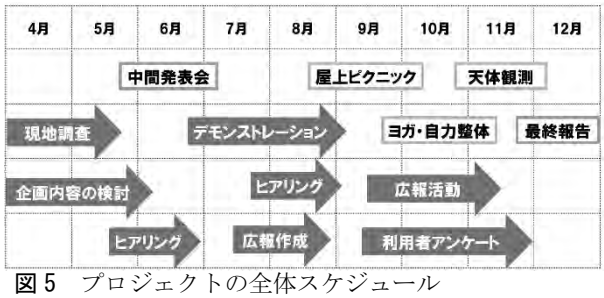

図 5　プロジェクトの全体スケジュール
出典：筆者作成

一連の活動の最初にイーグレの現状を理解するため，これまでの先輩方のプロジェクト結果や展望を確認し，現地調査，ヒアリング調査を実施することで課題を分析した。

以上の調査から浮かび上がった 2025 年度のプロジェクトにおける課題は，イーグレ内での課題となる①人の出入りが少ないこと，②イベント企画の活力不足，研究室内での課題となる③企画の持続性の欠如の 3 つであった。これらの課題解決に対する具体策と提案を検討し，活動の方向付けを行った。

①人の出入りが少ないことに対する解決方法として，これまでイーグレで体験したことのないような「非日常」の空間を創出すること，②イベント企画の活力不足に対しては，私たち大学生が楽しいと思うことを企画し，実施すること，③企画の持続性の欠如に対しては，2024 年度に先輩が実施し，好評だった「屋上ピクニック」を継続することにより，プロジェクトにおける課題を解決することとした。

具体的な企画内容は，イーグレの魅力である姫路城を眺望できる屋上を拠点に，2024 年度からの継続として「わくわく青空ピクニック」と題し，イーグレを利用している人や利用したい人を対象にピクニック用品の貸し出しを構想した。また，「非日常」の空間創出を意識した「夜空てらすピクニック」として，普段は解放されていない 18 時以降を特別開放し，天体観測，ヨガ・自力整体教室を企画した。

これらの企画の実施に向け，「わくわく青空ピクニック」は 2024 年度に同様の企画を実施していたため，利用者に一定の認識があると理解し，今年度のメイン企画となる「夜空てらすピクニック」とのつながりを生む企画を付け加えることが必要となった。昼と夜とのつながりは，「わくわく青空ピクニック」で蓄光ペイントを使用したアートを体験してもらい，「夜空てらすピクニック」で暗い夜の中ペイントが光る特性を活かした展示を実施することを構想した。また，「夜空てらすピクニック」では，天体観測，ヨガ・自力整体教室ともに専門性の高い内容であるため，協力していただける講師を探す必要があった。天体観測の講師は，学生プロジェクトにも理解がありイーグレで勤務されている方にプロジェクト内容の相談をする中で，イーグレの 1 階のテナントの天体観測を趣味とする社長を紹介していただいた。ヨガ教室の講師も上述した方から，イーグレでヨガをしたいと問い合わせを過去にしていた講師を紹介していただいた。その中から，直接アポイントメントを取り，協力者を確保した。また，2 日間の実施を考えていたため，イーグレの館内で紹介されていたヨガ教室のチラシに記載があった講師に直接アポイントメントを取り，自力整体での実施として協力いただけることとなった。

これらを企画提案発表会という形で，6 月 25 日（水）にイーグレひめじ管理会社，姫路市都市計画課，夕雲舎，講師の方を紹介してくださった方，ヨガ・自力整体の講師の前で報告した。

3.2 実施に向けた準備（６月～９月）

これらの企画実施において，特に「夜空てらすピクニック」は，特別開放による実施となるため，事前予約制による参加者の管理が必要であった。また，「わくわく青空ピクニック」においても 2024 年度で「また参加したい」と答えていただいた方への周知，より多くの方に参加してもらうためにも広報に力を入れることが必要となった。

2025 年度はこれまでのプロジェクトにも関わっていたデザイン会社の夕雲舎にチラシ，ポスターの作成を依頼した。企画提案発表会後すぐに，私たちがこのプロジェクトにかける思いや記載したい情報について話し合う打ち合わせやメールでのやり取りを通して，以下のようなチラシ，ポスターを作成してもらった（図 6）。

ポスターは，イーグレの地下，管理会社室前，屋上の入り口，大学での掲示を行った。チラシは，イーグレ 1 階のテナントであり，天体観測の講師が運営する施設内，大学内，プロジェクトメンバーが

図 6　チラシ・ポスター
出典：夕雲舎・筆者作成

携わる姫路駅西側で開催される旧市のきさき朝市にて配布した。

ポスターやチラシのほかに 2024 年度のプロジェクトメンバーである先輩から引き継いだ Instagram での告知，情報掲載を行った。屋上は天候に左右されるため，リアルタイムの屋上状況，実施可否を伝えるために活用した（図 7）。また，ヨガ教室の講師　には自身の Instagram での告知，教室での告知も行っていただいた。

図 7　Instagram 投稿内容一部
出典：筆者作成

3.3 実施・評価（9 月～12 月）

「わくわく青空ピクニック」は，9 月 20 日（土），21 日（日），23 日（火）に，11 時～13 時の時間帯で実施した。企画自体は，イーグレの屋上にて，レジャーシート，折りたたみ机を無料で貸し出し，利用者に屋上でゆっくり過ごしてもらうという内容である。希望者には，蓄光ペイント体験を実施した。

「夜空てらすピクニック」は，9 月 27 日（土）に，17 時～19 時 30 分で行い，「わくわく青空ピクニック」で描いてもらった蓄光ペイント展示をメインとした夜型ピクニックを開催した。10 月 3 日（金），4 日（土）には，18 時～19 時 30 分で天体観測を実施する予定だった。企画自体は，講師の天体望遠鏡で天体を観測し，モニターを通して参加者に観察してもらう内容である。10 月 10 日（金），11 日（土）には，18 時～19 時でヨガ・自力整体教室を実施した。企画自体は，講師が考案した 1 時間のプログラムを体験してもらうという内容である。10 月 3 日（金），4 日（土）は天候不良のため，11 月 9 日（日），10 日（月）の 18 時～19 時 30 分に延期したが，天候不良により，10 日（月）のみの実施となった。

実施結果は利用者アンケート，貸し出し記録用紙をもとに集計した。まず，「わくわく青空ピクニック」では 3 日間で 29 人に参加してもらうことができた。そのうち，アンケートの協力者は 8 人であった。満足度の質問ついては「非常に満足」と回答した割合が約 75%であり，参加者にとって有意義な時間となったことが分かった（図 8）。

次に，「夜空てらすピクニック」では 4 日間で 28 人に参加してもらうことができた。そのうち，アンケートに協力してもらえたのは 17 人であった。満足度の質問に対しては，「非常に満足」と回答した割合が約 93%であり，2025 年度の新たな取り組みとなった夜という時間帯，講師という専門家の影響

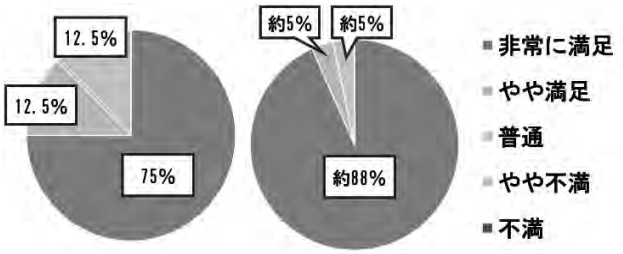

図 8　アンケート結果「満足度」
（左：わくわく青空ピクニック　右：夜空てらすピクニック）
出典：調査結果から筆者作成

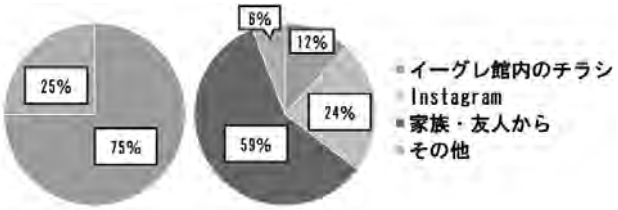

図 9　アンケート結果「情報源」
（左：わくわく青空ピクニック　右：夜空てらすピクニック）
出典：調査結果から筆者作成

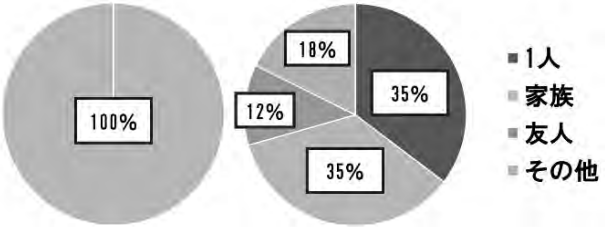

図 10　アンケート結果「参加形態」
（左：わくわく青空ピクニック　右：夜空てらすピクニック）
出典：調査結果から筆者作成

が大きいことが考えられる（図 8）。

「どこから情報を得ましたか？」という質問に対しては，「わくわく青空ピクニック」では「イーグレ館内のチラシ」と回答した人が最も多かった。この結果からは，日常的にイーグレを利用している人が立ち寄ったことが考えられた。「夜空てらすピクニック」では「家族・友人から」や「Instagram」と回答した人が多かった。予約制での実施のため，日常的にイーグレを利用している人ではなく，「夜空てらすピクニック」を目的にイーグレを訪れたことが考えられた（図 9）。

「誰と参加しましたか？」という質問に対しては，「わくわく青空ピクニック」では「家族」との回答が 100％であった。その理由は，重点的に広報活動を行った親子に参加してもらうことができたと考えられる。「夜空てらすピクニック」では「1 人」，「家族」など回答が多様であった。講師がいる教室型の開催であったことで 1 人でも参加しやすい環境を整えることができたと考えられる（図 10）。

写真 1　環境人間学フォーラム様子
出典：同研究室内学生撮影（2025 年 12 月 4 日）

これらの企画実施後には，イーグレひめじ管理会社から「屋上の利活用について考える良い機会となった」とコメントをいただいた。

2025 年度のプロジェクトの成果報告として，12 月 4 日（木）に，環境人間学部の学内プレゼン大会である環境人間学フォーラで口頭発表を行った（写真 1）。イーグレの客観的情報，現在のイーグレの課題，その課題を乗り越えるために行った今年度の特徴的な企画である「夜空てらすピクニック」の概要，その結果について報告をした。

4. 教科書と実践との比較

4.1 計画段階

教科書で示された実施工程の 1 つ目であるプロジェクトの目標については，①イーグレの場所性を活かす，②にぎわいを創出する，③学生ならではのプロジェクトを行うという 3 点を定めていた。しかし，教科書の 2 つ目の項目である「達成要件を定めること」に進んだ際に，評価の基準が曖昧となることや自分たちが考え始めていた企画内容との整合性を取ることができていない目標であった。そのため，一度差し戻しを行い，目標を「屋上利用方法の幅を広げ，持続可能な屋上利用を促進する」とし，ビジョン，ミッション，ゴールの定義を再確認した。そして，ビジョンを「屋上の新しい活用方法を見つける」，ミッションを「夜の活用の可能性を見つける」，ゴールを「夜の活用方法を提示する」とした。

続いて，実施工程③タスクを設けること，④工程表の作成については，表の中にタスクを書き出し，プロジェクトを進めるコツで示された課題管理表のみを作成した。エクセルにて，表を作成することで初期段階の大まかなタスクから中盤段階の取捨

大項目	小項目	達成要件	作業	担当者	期限	メモ	状況
計画を立てる	ビジョン	文章化される		全員	2025/5/2		完了（イーグレに人が来る）→屋上が親子の憩いの場となる→屋上の新しい活用方法を見つける
	ミッション	文章化される		全員	2025/5/2		完了安心感のある＝通い慣れている→夜の活用の可能性を見つける
	目標	説明できる		全員	2025/5/2		完了（イーグレを拠点に姫路の魅力を発信する）→ゴール：夜の活用方法を提言する
	PJ名作成			全員	2025/5/2	いっとこいいとこイーグレひめじ・にぎわいーグレ・集まる	いいとこ いっとこ イーグレひめじ →いつやるの？「今でしょ！！」
	達成要件リスト化			全員			
	スケジュール作成	大項目を作る		全員	2025/4/30	この表	仮（進行中）
中間発表までの計画書を作る	企画を固める	PowerPoint作成		全員	2025/6/6		完了（中間発表資料）
	スケジュール	表にまとめる		全員			仮（進行中）
	管理会社ヒアリング	日時・場所が決まる	アポを取る	伊澤、樽角、久保田	2025/5/2		完了（5/30（金）15:30～ @管理事務所 ナイトピ
		実施する	ヒアリングする	全員		5/30（金）15:30～ @管理事務所 ナイトピ	完了（池本、伊澤、樽角）
		まとめる	共有し書き出す	全員	2025/6/2		完了（6/2）
	課題の把握		現地調査など	全員			完了
中間発表	実施に向けた準備	日時の確定	夕雲舎にアポを取る	久保田	2025/4/30	夕雲舎	完了（6/25（水） 14:00～15:00 中間発表）
		場所の確定	日建学院にアポをとる	伊澤	2025/5/12	6/25 13:00～16:00 知り合いの方にお願い	イーグレ4階セミナー室B
		中間発表呼びかけ資料送付	資料作成	久保田	2025/5/9	夕雲舎に送る	5/16送付
		月見・天体観測について深める	ヒアリングに行く	池本・伊澤			メールで完了（6/9） 7/12に見学行く
		ヨガについて深める	連絡とる	久保田・樽角			インスタ・メールで連絡完了（6/ ） 講師の方2名
		ナイトピクニックデモンストレーション	やってみる	池本・伊澤・樽角		夕焼けきれいだった・机結構いい	完了（6/12 18：50～19：30）
	PJ案確定	フィードバックで協力体制を確立する	たたき直し	全員	2025/6/25	大丈夫そう 深めるのみ	進行中
		発表資料・企画書送付	資料作成	全員・久保田	2025/6/23		完了
実行	事前準備	場所・日時の確定	相手・自分たちで話し合い	全員			中間発表ので大丈夫そう、ヨガの人とも話せた(6/25)
		科学館ヒアリング	解説ボード作成に当たって	池本・伊澤	2025/7/12	姫路科学館 担当の方	完了（目標が大切、デモンストレーションやるべき）
		昼のデモンストレーション	暑さ対策確認、ペイント確認	全員	2025/8/31	8/5（火）12：00～13：30	暑さのみ（対策は呼びかけのみ、耐えられないから時間を11：00～13：00に）、ペイントは後日学校で確
		詳細決定	管理会社に確認（ヒアリング）	伊澤、久保田、樽角	2025/8/31	8/5（火）14:00～15:00	8/5回答してもらったやつの確認
		ナイトピクニックデモンストレーション	ペイントの設置方法・ヨガのライト確認	全員	2025/9/20	9/1（月）17:00～19:30	
		準備物確定		全員	2025/8/31	ブラックライトなど	ほぼ確定
		準備完了	買い物	全員	2025/9/20	蛍光ペン、ブルーシート、星座表、解説シート、（ブラックライト）	
		QRコード作成		伊澤	2025/7/18	担当の方に送る	
		Googleフォーム作成		全員	2025/9/19		8/28完了
		姫路市役所文化財課	何をするか伝える	池本、伊澤、久保田	8月上旬		完了（イーグレも世界遺産の範囲内にあるため、世界遺産の活性化という点も背景に入れて欲しい）
		屋上の使用許可が出る	申請など	池本、久保田	9月上旬		完了
	広報	内容決定	担当の方と打ち合わせ	全員	2025/7/9		完了（対面1、メール2？）
		チラシ完成	担当の方	チラシ担当の方	8月上旬	完成したら送ってもらってそのご確認	8/22完了
		設置する		全員	2025/8/31	管理会社・イーグレキッズなど	
	実施		アンケートとる	全員	その日		
実施後	ヨガのチラシ	完成する	担当の方と打ち合わせ		2025/10/31	ヨガの2人の広告になるようなもの？	
	参加者からのフィードバック	意見が集まる	インタビュー、アンケート	全員			
振り返り	計画との差異	把握する	話し合い	全員			
	コミュニケーションの頻度	把握する	話し合い	全員			
	PJの可視化	把握する	話し合い	全員			
	相互評価	把握する	話し合い	全員			
環境人間学フォーラム	作成			全員	2025/11/20	発表登録締め切り：11/7（金）（仮）	
	発表			池本、伊澤	2025/12/4	発表：12/4（木）13：00～15：45（仮）	
EHCリサーチペーパー	報告書にまとめる	全体の振り返り	文章化する	久保田	2026/1/31	確認：伊澤	

図 11　実際に作成したタスク管理表
出典：筆者作成

選択が終了した状態へとファイルの内容を変化させることができたため，③タスクを設けること，④工程表の作成，それに加え，プロジェクトを進めるコツで示された要望管理表，課題管理表の役割を 1 つのファイルで担った（図 11）。

4.2 実施段階

私たちのプロジェクトでは，6 月 25 日（水）の企画提案発表会において 2025 年度のプロジェクト内容が決定したことで実践に向けて進んでいくことになった。7 月中はチラシ，ポスターの作成に向けた打ち合わせや「夜空てらすピクニック」の講師とデモンストレーションを実施するために管理会社と日程調整を進めるなど，実施に向けた活動ができていた。しかし，8 月中旬から夏休みに入ったことやプロジェクトに向けて行うことも必要備品の買い出しや関係者との連絡に留まり，メンバー全員での活動機会が減少した。9 月 20 日（土）から始まるプロジェクトに向けての準備が進んでおらず，教科書でいう「炎上」の一歩手前の状態となった。メンバー内でも「炎上」に近づいていることをそれぞれが認識していたため，「鎮火」に向けて行うべきことである状況把握を行った。その時点で，目標達成が困難な残りのタスク量ではなかったため，再度役割分担を行い，実施した。また，完成したチラシの配布を含めた広報活動が計画通りに進んでいなかったため，配布先を再検討し，11 月 10 日（月）の延期日程の数日前まで広報活動を行った。

実施過程においては，夏休みに入ったことで気の緩みが出た等の要因により，プロジェクトが停滞したが，教科書で事前に「炎上」という状態をメンバー全員が認識していたため，「炎上」に近づいていることを認識し，再確認をしてプロジェクトを進めることができた。

4.3 評価段階

まず，プロジェクト実施中の評価として挙げられていたプロジェクトの残り時間とタスクの関係については，7 月末時点で図 12 のように認識していた。

前半の急なタスクの増加が響いたが，メンバー間での話し合い，役割分担を通してタスクの増減に問題が生じるほどの状態ではなかった。

次に，目標を達成した時点での評価として，私たちのプロジェクトは成功であったと考える。ビジョンである「屋上の新しい活用方法を見つける」，ミッションである「夜の活用の可能性を見つける」，ゴールである「夜の活用方法を提示する」という 3 点について，アンケート結果からも満足度が高かったこと，イーグレひめじ管理会社から「屋上の利活用について考える良い機会となった」という声から，プロジェクトのビジョン，ミッション，ゴールに貢献することができたと考えられる。

外部評価についても，上記の評価と同様にプロジェクトの成果を受け取るイーグレひめじ管理会社による声や環境人間学フォーラムでの「非日常的な空間を上手く創出できたと感じた」等のコメントをもらったことから，プロジェクトとして成功であっ

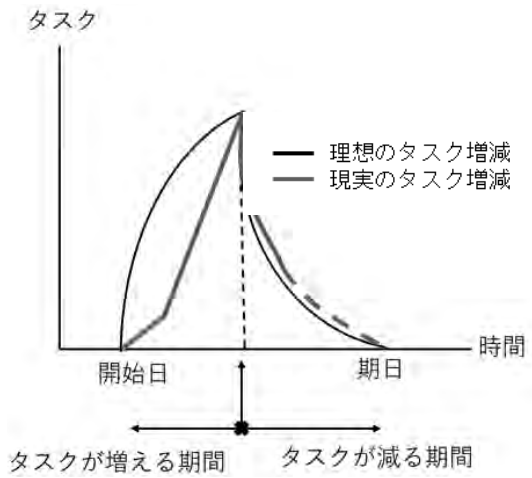

図 12　タスクの増減の理想と現実
出典：筆者作成

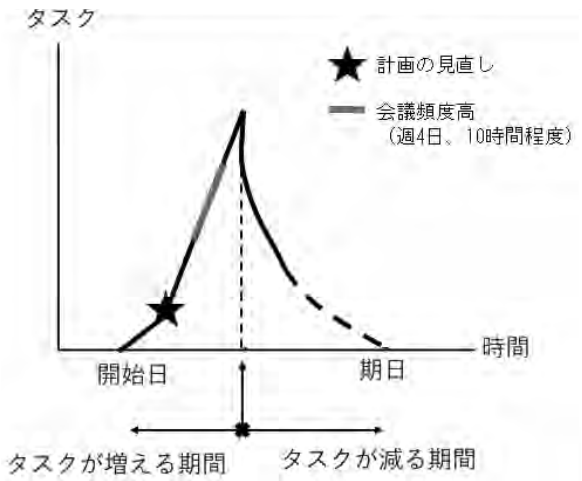

図 13　プロジェクトのタスクの可視化
出典：筆者作成

たと評価されたと考える。

内部評価に関する①から④について 1 つずつ評価する。まず，①計画との差異を明らかにすることでは，図 12 で示したタスク増減の理想と現実を可視化したグラフから分かるように，「炎上」という状態について理解したうえで早めの見直しを行ったことにより，大幅な作業の遅れは起こらなかった。②コミュニケーションについて評価することでは，会議の開催やコミュニケーションの頻度は週 2〜3 日，4〜8 時間であった。実施工程②達成要件を定めることから①目標を立てることへの差し戻しを行った時期，タスクが増加した時期は週 4 日，10 時間程度で会議やコミュニケーションを取っていた。③プロジェクトの可視化を行うことでは，タスクの増減や計画の見直しのタイミング，コミュニケーションの頻度を表したグラフは図 13 のようになった。計画の見直しは初期段階の 1 度のみでタスクの増加に伴い，メンバー間でのコミュニケーション頻度が高くなる傾向にあった。④プロジェクトの振り返りシートを作成することでは，できるようになったこととして，関係者との連絡の取り方やメンバーとのコミュニケーションを定期的に取ることなどが多く挙がった。努力したこととしては，メンバーとのコミュニケーションを取る時間を多くすること，効率よく会議を行えるように会議が煮詰まった際には時間を置いたり指導教員に相談したりするなど主観的な視点のみにならないようにしたことなどが挙がった。メンバーとのコミュニケーションにおいて，オンラインで実施したこともあったが，有意義な話し合いができなかったことから，基本的には対面でコミュニケーションを取るようにした。メンバー間の相互評価としては，計画段階においては客観的に現状を把握できるメンバーがリーダーシップを取って会議を進んでいた点が良かったという意見があった。実践段階においては，役割を分担し，屋上での受付を行うメンバー，1 階で誘導を行うメンバーなど臨機応変に対応できていた点が良かったという意見があった。全体を通して，それぞれの生活環境やスタイルによってプロジェクトの関与度に差が出てしまう時期が発生したことや同様の熱量を持って活動することの難しさについて言及するメンバーもいた。

5. まとめ

5.1 プロジェクト活動を通した学び

2025 年度のプロジェクトを通して得た学びは，大きく 2 つある。

まず，メンバー間での情報共有の重要性である。これはプロジェクトの進捗状況，タスクの現状などメンバーそれぞれが状況を把握し，プロジェクトを進めていく必要性を痛感したからである。会議に参加できないメンバーがいた場合，情報共有を疎かにすると次の会議で手戻りが発生し，限られた時間を有効的に使用することができず，時間のみが経ち，プロジェクトが進まない状態になっていた。長期間のプロジェクトであるほど，常にメンバー全員で会議を行ったりタスクに取り組んだりすることは困難となる。しかし，プロジェクトは当然，1 人で取り組むことはできないものであり，メンバー全員が同様の目標，熱量を持ち，時には役割分担を行いながら進める時間が必要となる。そのため，プロジェ

クトに関わることができたメンバーは情報を共有し,関わることができなかったメンバーは共有された情報を確認することでメンバー全員が同様の情報量を持ってプロジェクトを進めることができる。情報共有を意識的に積極的に行うようになったことにより,効率的にタスクに取り組むことができるようになった。

次に,プロジェクト開始前にプロジェクトについて理解を深めておく必要性についてである。大学生1 年生向きの教科書に基づいてプロジェクトを実施したことにより，全体の流れや方法、注意点をあらかじめ認識することができていた。特に，プロジェクトに関わるメンバー全員が「炎上」についての理解があったため，「炎上」の一歩手前で状況把握を行い，役割分担をすることができた。このことから，初めてプロジェクトを実施する際には，メンバー全員でプロジェクトの全体像を理解したうえで進めることが重要である。この意味でプロジェクトがどのようなものかや,プロジェクト実施中に起こりうる問題,評価の重要性等を教えてくれる教科書があり，事前学習をしたことは有意義であった。

以上より，2025 年度のプロジェクトを通して，メンバー間での情報共有を疎かにしないこと,メンバー全員がプロジェクトについて同様の理解を得ておくことが PBL 実施には重要な要素だといえる。

5.2 必要とされる教科書の提案

一方で,教科書の記載とは異なる作業を行った点もある。それは，プロジェクトの実施工程にあるタスクを書き出した要望管理表を作成し,その後実際に必要だと判断した課題管理表を作成する工程であった。私たちは，上述のようにエクセルにて要望管理表を作成したことにより,作業が進むにつれて内容が要望管理表から課題管理表に遷移していった。そのため，タスク管理表として編集，共有しておくことが実践において効率的であると実感した。

また，教科書には「目標」,「ビジョン」,「ミッション」を設定することの重要性が述べられていたが,それぞれの違いや定義の仕方が理解できず,何度も差し戻しが発生した。そのため，教科書においてそれぞれの違いや定め方が明記されていると分かりやすいと感じた。私たちは，今後の施設の在り方や理想像について KJ 法を用いてメンバー間で協議した。それにより，プロジェクトの根幹となるものを見つけることやプロジェクトの見通しを立てることができ,「目標」の設定などに至った。このことから，教科書において定義を示すことも重要だが,方法論について具体例があると PBL 初心者には分かりやすいものになると考えた。

これらのことから,メンバー全員がプロジェクトを進める方法,注意点などを理解しておく必要があると言える。この場合，教科書による共通理解を持ってプロジェクトに取り組むだけでなく,大学の講義による学習時間の確保など,どのような手段であれ,メンバー全員がプロジェクトについて同様の理解を得ることができる環境が必要である。

いずれにしても，PBL は大学だけではなく，高校段階でも重視されるようになっている中で,教科書の存在は教員にも学生にも価値があることは明らかである。本稿が，より実りのある教科書づくりの一助になれば幸いである。

謝辞・付記

プロジェクトの実施にあたり,多くの方々にご協力をいただきました。あらためて感謝申し上げます。また,教科書の著者の先生方にも具体的かつ多くの学びを与えていただいたことに感謝申し上げます。

参考文献

1)北梨緒乃・藤原颯太・永井結季子・山鳥実咲・河原美羽・太田尚孝（2025）「イーグレひめじにおける学生主体の PBL 型の社会実験の実施と心得 ： 兵庫県立大学都市計画研究室の 2024 年度の活動報告」兵庫地理，70，137-146

2)河原美羽・細見佳乃子・大前亜喜・雫石千代乃・筒井勇翔・土肥真由香・藤原志帆・前田菜緒・太田尚孝（2024)「学生主体のイーグレひめじの活性化にむけたプロジェクト実践 ： 兵庫県立大学都市計画研究室の 2022 年度・2023 年度の活動報告」兵庫地理，69，157-165.

3)井関崇博・太田尚孝・内平隆之・佐々木樹・尾分達也（2025）「大学教育の PBL における学生プロジェクトの支援戦略」兵庫県立大学環境人間学部研究報告，27，45-64.